

教員氏名	科目名	アンケートに対するコメント
山本隆一郎	基礎ゼミナールA	<p>本授業は、1年次配当のゼミナール科目である。評価の平均点は5点中4.8点であり概ね高い評価を頂いた。自由記述でも「理解しやすく楽しかった」「仲が深まった」という意見も散見された。例年述べていることであるが、基礎ゼミナールAの初期は大学での適応を定着させることが中心であり、ゼミ生同士の相互作用の良好さが大きく授業評価に反映される印象を持っている。満足度の高さは、今後の学生生活への適応にとっても好ましいと考えられる。「楽しかった」「仲が深まった」も科目趣旨から大事な到達目標であるが、授業を踏まえて、心理学を学ぶ上でどのような基礎力が身についたかという視点も併せて振り返ってもらえるとよいと思う。</p>
山本隆一郎	臨床心理学概論	<p>本授業は、2年次の必修科目でありオンライン授業科目（オンデマンドでの授業実施）である。昨年度は定期試験期間終了後の紙媒体での授業評価アンケートであり、今年度は試験開始前のえどへん（出席管理システム）を介したアンケートであった。評価の平均得点は5点中4.7点であり概ね高い評価が得られたと感じている。評価の比較的高かった項目としては「授業の終了開始時刻が守られていた（4.8点）」、「話し方は明確だった（4.8点）」が挙げられる。一方低かったものとしては「私語を注意するなどスムーズな授業運営（4.3点）」が挙げられるが、これはオンデマンド授業では評価しがたかったのであろう。自由記述の中には「実戦経験を踏まえた担当教員にしかできない面白い授業であった」「複雑な内容であったが、わかりやすかった」といった声があった。授業の後半は心理療法の背景哲学についての話など抽象度も高いこともあり、繰り返し見れるオンデマンドの方式・構造化された授業の進め方が改めて効果的であったと感じた。例年、再三申し上げているが、臨床心理学は「人のHappyやUnhappyという事例個別的で文脈依存的な不良設定問題を理解し支援する学問である」と説明をしてきた。また、この学問を学ぶことは単に心理職の根幹となる知識を身に着けるということだけでなく、自分らしく生きるためのヒントをつかむことにもなると授業で強調をしてきた。今後の生活の中で困ったことがあった時に、本授業の内容がより自分らしく素敵に生きるためのヒントとなることを祈念している。</p>

教員氏名	科目名	アンケートに対するコメント
山本隆一郎	健康・医療心理学	<p>この授業は3年次配当2群選択科目かつ公認心理師資格に関する科目である。評価の平均点は4.8点と高い評価を頂いた。</p> <p>自由記述でも「知識だけでなく、体験をしてみる回があったり、教科書に書いてあることを読むような授業ではなく、主体的に参加する工夫があった」といったような意見を複数頂いた。</p> <p>また、「小課題の中に先生が口頭で話した内容があったが、資料に書いてもらえると見返したときにわかりやすい」という意見や「課題がClassroomのtodoに表示されるようにしてほしい（課題として設定してほしいと理解）」があった。前者については、自分で振り返れるようにまとめるように努めてほしいと考えている。日々新しいエビデンスが出現しリアルタイムで話題が変わる中でそれを取り上げながら授業を展開している（それが、ライブの授業での務めだと思っている。そうでないなら、教科書的なものを読み上げればよい）。後者については、そもそも授業の時間内に終われる程度の課題にしておき、咀嚼の時間やネットワークトラブルに備えて提出に猶予を与えているのであり、忘れないようにするのはそれぞれの責任ではないかと考えている。</p> <p>大学は個々の学生さんが学究する場であり、「あとでここをみればいいよ」「わすれないようにリマインドしてあげるね」というのは、皆さんにとって便利かもしれないが、主体的な学究の機会を奪ってしまうことになると感じている。楽しい・便利・考えなくてもやってくれるという環境を簡単に与えられることは、本当に「よい」ことなのだろうか？このことと類似して「楽しい・便利・考えなくてもやってくれるという発展は、人々を自由に、また健康にしたのだろうか？」ということは授業の中でも再三問いかけてきたことである。ちょっとしたプロンプトの出し方、授業にもすべて意図をもって授業運営をしているので、再び考えてみてほしい。*お説教をしているのではなく、授業に関連した本質的なことを考える良い題材だと思うのでぜひ考えてほしい。</p>
田辺江美子	日本国憲法 4時限	<p>みなさん、こんにちは。</p> <p>授業評価アンケートにご協力くださってありがとうございます。</p> <p>みなさんの評価のほとんどが、全学平均にほぼ重なっていました。</p> <p>設問23の「総合的に考えて、この授業を後輩や他の人に薦めたい」の評価は、4.4でした。</p> <p>この授業で、対象のみなさんは、こどもコミュニケーション学科以外の全学生で、1年生から4年生にわたり、大変幅広いものでした。</p> <p>これまでの経験も興味も、学力も、異なる中での評価は、たいへん有難いものです。</p> <p>皆さん一人一人が、それぞれ努力して、受講して下さった反映と感謝します。</p> <p>また、自由記述では、「日本国憲法は堅苦しいものだと考えていたが、身近にあるものだ実感できた。授業がわかりやすかった。」との回答がありました。</p> <p>まさに、この授業で目指していたものです。</p>

教員氏名	科目名	アンケートに対するコメント
浅岡章一	心理学実験プログラミング	全ての項目において、全学平均を上回る評価を頂きました。心理学科では珍しいプログラミングの授業であり、難易度設定に頭を悩ませましたが、ある程度適切なレベルだったようで安心しました。また、ハイフレックス型の授業とし、毎回の授業動画を復習用にUPするという授業形態がこの科目の内容にマッチしたようで、この点に関して多くの好意的なコメントを頂きました。心理学科の学生さんがプログラミングに触れるキッカケを提供できるよう、今後もコンセプトはキープしつつ、より魅力的な授業となるよう内容の工夫をしていきたいと思えます。
浅岡章一	基礎ゼミナールA	授業の内容および方法に関する評価は全学平均を上回るものでしたが、学生の皆さんの授業外での学習に関わる点や、積極性に関する項目は点数が低くなっていました。基礎ゼミナールAの教育上の役割や狙いが学生さんに伝わるような工夫と共に、授業外の課題の量についても再検討が必要かもしれないと感じました。
酒向浩二	日本経済入門	多くの方に履修、アンケート回答して頂きまして、誠にありがとうございました。 日本経済をニュースから切り込んで、需要項目別に、理論を解説する内容にしましたが、多くの方に、関心のあるニュース選択、課題のディスカッションに取る組んでいただき、有益な授業になったようで幸甚です。引き続き、皆さんの役に立ち、使える知識、加えて、平素から経済ニュースへの感応度を高められるように尽力して参ります。
酒向浩二	国際経営論	多くの方に履修、アンケート回答して頂きまして、誠にありがとうございました。 国際経営を海外ニュースから切り込んで、トランプ時代の経済情勢の変化に、日本企業がどう適合するかを解説する内容にしましたが、関心のあるニュース選択、課題のディスカッションに取る組んでいただき、有益な授業になったようで幸甚です。引き続き、皆さんの役に立ち、使える知識、加えて、平素から国際経営への感応度を高められるように尽力して参ります。
吉田一康	企業と法Ⅰ	一般的に、高い評価をして頂きましてありがとうございます。その中であって、設問10「授業を通して多くの知識を得ることができた」、12「教材・資料等の利用は授業の理解に役立った」及び13「板書や機器を使った表示文字は見やすかった」の評価が4.6と最も低かった点については、もっと分かり易い方法で説明する工夫が必要と思えました。 設問5「教科書や配布資料を読むなど、予習・復習や授業に関連する取組をおこなった」が4.2で、設問6「この授業に関して、予習や復習などの事前準備や復習はどの程度時間をかけましたか」の評価が2.8と相変わらず低かった点については、引き続き、講義内で、次週のテーマの紹介や課題などを明示して、予習や復習を習慣づけなければならないと考えました。 受講者に関しては、ほとんどの方が後ろに着席して、前列が数名しかいなかったのは寂しかったのですが、授業態度は、驚くほど真面目で静かなものでした。御礼申し上げます。
花坂哲	外国史学概論	テストの際の資料持ち込みを希望するコメントについて。持ち込みを可とする内容のテストではありませんし、全員が満点を取る可能性もありますので、今後も持ち込みは許可しません
吉村貴之	異文化コミュニケーション	今年は、異例なまでに受講生が少なかったため、アンケートに回答した学生は、かなり熱心に参加していた受講生かと思われる。予習復習に関しては、専門科目でないため、負担軽減を心掛けているため、学生によっては物足りないかもしれない。近年、動画を積極的に活用しているが、教える内容が昔のままになっていて、その分、駆け足になりがちところが、「話し方が不明瞭」に受け止められているようだ。今後は、教える内容を少し減らして、授業内容の趣旨が見えやすくするようにしたい。

教員氏名	科目名	アンケートに対するコメント
館林牧子	メディアリテラシー	たくさんのコメントありがとうございました。具体的な要望があればご連絡下さい
館林牧子	新聞論Ⅰ	コメントありがとうございます。新聞に理解を深めていただけてうれしいです
館林牧子	マスコミ総合科目B	ありがとうございます。後期も頑張っていきましょう
山崎貞登	教師論	「この授業に関して、予習や復習などの事前準備や復習にどの程度時間をかけましたか」が2.7で、全授業科目平均値2.8よりも低い。来年度は予習や復習したことをEシート（ポートフォリオ）に記入させて、成績の判定基準の重み付け20/100%（検討中）を検討したい。2025年度は受講者数が62人と多く、受講生の私語に対する指導や注意を徹底していただきたい旨の記述をいただいた。反省し、2026年度は私語に対する注意を一層厳しくしたい。
山田洋介	マーケティング特講	授業の予習復習に取り組んでもらえるようなプログラム作りを心がけます。
山田洋介	サービス産業論Ⅱ	板書の文字の見やすさに工夫をします
山田洋介	基礎ゼミナール	1時間程度の予習・復習をしてもらえるようなプログラム作りを心がけます
尾花真梨子	基礎ゼミナールA	アンケートへの回答をありがとうございます。この科目は、1年次配当の少人数制のゼミナールで、大学で心理学を学ぶために必要な学習態度を身につけることを大きな目的としています。具体的には、講義への参加の仕方、効果的な図書館の利用方法、資料収集方法、資料の読み解き方、要約の方法等を学習するような構成となっています。全体の平均値も高く、履修した皆さんにとって概ね満足度の高い科目であったと考えられます。授業では、大学への適応を促すことディスカッションの機会を積極的に設け、学生同士が相互に積極的なコミュニケーションを図れるような工夫を行いました。そういった機会が、仲間意識や学習意欲の向上につながっているとすれば嬉しく思います。後期も引き続き頑張りましょう！
尾花真梨子	障害者・障害児心理学	アンケートへの回答をありがとうございます。この科目は、3年次配当の公認心理師受験資格対応科目の一つであり、障害に関する定義や法制度などの基礎知識を踏まえ、障害者・障害児が抱える心理的・社会的困難の実際について理解を深めることを目的としています。同時に、障害者・障害児を支援する際に求められる心構えや支援のあり方、法制度ならびに支援施設に関する基礎知識の獲得することをも視野に入れた構成となっています。今年度もたくさんの履修者がいましたが、全体の平均値は4.7であったことから、学生の皆さんにとって満足度は高かったものと考えられます。また、自由記述でも、複数のあたたかいコメントをいただきありがとうございます。授業でも双方向性を保つように努め、スプレッドシートを活用したQ&Aを作成し、学生の皆さんからの授業内容や日常生活における疑問などの質問・相談に答えるなど、机上での学びと現場をつなぐことができるように努めました。今後、社会の中で障害者・児と直接的・間接的な接触は非常に多くなることが予想されるため、本科目での学びが皆さんの日常生活において何かしらの手助けとなったら嬉しく思います。なお、授業内の小課題作成についてご意見をいただきましたので、その点については次年度以降の検討点とさせていただきます。
安岡義文	美術工芸研究Ⅰ	自由記述欄に「専門性が高く終始難しい講義内容」と書かれているが、今後、より優しい内容を盛り込んでいくことを検討いたします。 授業の予習復習の点数が3.0（全額集計2.8）とあるが、今後学生が積極的に予習復習を行うような教育内容を開発していきます。
平松恵一郎	コンテンツビジネス概論	アンケートの回答ありがとうございます。パワーポイントの内容がわかりにくいところもあったかと思うので、アンケート結果をもとに改善していきたいと思っています。

教員氏名	科目名	アンケートに対するコメント
伊藤彬	トレーニング科学 I	授業評価アンケートにご回答いただきありがとうございました。この科目は、スポーツ競技における怪我を題材にして、その病態や発症メカニズム、具体的な症状、応急処置、予防法などを学ぶ科目です。スポーツ医学に関する専門用語が出てくるため、よりわかりやすく伝えられるように、写真や動画を用いながら授業を展開しました。その結果、授業アンケートではほとんどの項目で高い評価となりました。これからも継続して教育活動に精進していきます。
蛭原正貴	基礎ゼミナール	この科目は1年生の前期ゼミ科目となっていました。全体的な評価としては、4.5ポイントとなっており、全学平均と同様の結果となりました。そのため、ほとんどの項目で全学平均と同様の評価となっていました。ゼミ科目ということで、少人数を対象として展開されるため、もう少し個々に丁寧に対応する必要があったと反省しています。学生の皆さんのニーズに細かく応えられるよう、科目の特性を活かした対応を検討していきたいと思ます。
蛭原正貴	幼児と健康	この科目は幼稚園教諭1種免許状の取得要件となっているため、科目の開講学年である2年生のほとんどの学生が受講していました。全体的な評価としては4.6ポイントとなっており、全学平均を0.1ポイント上回っていました。ただ、「教材・資料等の利用は授業の理解に役立った」という項目においては4.3ポイントとなっており、全学平均を0.2ポイント下回っていました。パワーポイントを使った授業であったため、見づらかった資料がなかったか再確認するとともに、授業の理解に役立つ資料の提供ができるよう努めたいと思います。
蛭原正貴	保育実習指導 I B	この科目は保育士資格の取得要件となっているため、科目の開講学年である3年生のほとんどの学生が受講していました。全体的な評価は4.7ポイントとなっており、全学平均を0.2ポイント上回る結果となっていました。実習の事前・事後指導に該当する科目であるため、受講生の意識も高く、積極的に取り組んでくれた印象があります。学生の皆さんの意欲を実習へとつなげられるよう、不安や心配を払拭できるような授業展開に努めていきたいと思ます。
丹羽 浩之	音楽アーティスト論	自由記述にて、多くの高評価をいただきありがとうございます。「知らないアーティストの知識が得られてよかった」、「自分が今まで生きてきた中では、経験できないような内容で、新たな視点から物事を見ることができたように感じた」といった意見をいただき、新たな知見を授けることができ良かったと感じています。また、「本当に面白いと思った授業だった」「音楽ビジネスを専攻する人はもちろんしない人にもおすすめできそう」と言っていたので、これからも学生の皆さんの進むべき方向性にプラスに繋がり、好奇心を刺激する飽きさせない授業を心がけていきたいと思ます。
石山智恵	アナウンス論	『授業内のフィードバックが丁寧過ぎて、全員に行き渡らなかった』旨の指摘がありました。次年度は、時間配分に配慮して、皆さんが満足のゆくフィードバックとなるよう工夫したいと思ます。

教員氏名	科目名	アンケートに対するコメント
渡邊美紀子	心理学的支援法	<p>この科目は3年生の選択科目で、公認心理師の養成カリキュラムにおいて、大学学部での履修が求められる科目です。人が他者を心理的に支援するためには、心理学の様々な知識が求められます。理論を構築した偉大な心理学者たちは、それを伝えるために文字を利用していますが、実際に彼らはもっと直接的な「内的体験」を通じて理論を構築してきたのだと思います。それらをできるだけわかりやすくお伝えするために、比喩や自分自身の臨床体験なども利用しながらお伝えしましたが、理解しにくい所があったかもしれません。</p> <p>「授業は何を目的としているのかが、明確に理解できた」という問は全学平均を上回っており、おそらくメンテメーターやワークなどを通じ、学生のみなさんが体験したことにより理解が進んだのだと思われます。</p> <p>いただきましたコメントや評価を次年度に活かせるよう、精進していきたく思います。受講いただきありがとうございました。</p>
中島健夫	ドキュメンタリー論	<p>貴重なご意見ありがとうございます。課目の性格上テストではなく、課題提出の形式にしています。課題作成の方法にはまだまだ授業改善の余地があると思いますので、皆様のご意見を参考にしてより良い授業を目指していきます。</p>
中島健夫	国際報道論 I	<p>貴重なご意見をありがとうございます。なかなか興味関心が湧きにくい学びをどのように皆様の興味に近づけることができるかが大切だということを改めて実感しました。授業マネジメントや講義のスピードなど、皆様のご意見を参考にしながらさらに改良を進めてまいります。</p>
中島健夫	マス・コミュニケーション演習実習B	<p>この授業では企画・撮影・編集の基礎を学んでいただくのが目的で、その点では受講生の皆さんの期待に一定程度お答えできたのかなと考えています。ただ、さらに個々の学生の疑問や関心に応えられなかったのか、さらに効率的かつ理解しやすい授業運営はないのかを追求しながら、今後の授業運営を進めていきたいと思ひます。</p>
嘉瀬 英昭	観光ビジネス論	<p>設問23を含めて、全体を通じて概ね全学集計の数値を上回ることができた。次年度以降も維持できるように努めたい。</p>
松田稔樹	教育学概論	<p>アンケートへの回答、ありがとうございます。初めて担当した科目ですが、結果を参考にして、来年度はより良い授業にすべく、工夫したいと思います。</p>
本多 悟	ことばと表現（書きことば）	<p>「ことばと表現（書きことば）」の授業では、メディアの制作現場で使える文章力を養うために、実践的なトレーニングをおこなっているため、作文・ルポルタージュの課題を毎回出しています。</p> <p>まずは、受講生の皆さんが課題に対して真摯に取り組んでいただいたことに感謝を申し上げます。</p> <p>また、アンケート設問10「授業を通して多くの知識を得ることができた」において4.8の評価と、自由記述欄に「就活にも欠かせない文章の書き方を学んで良かったと思います」「取材に行ったり、三題断を考えたり、普段することのない経験ができて面白かったです」「自己紹介から創作作文までいろいろなことを学べた。自分の得意な書き方を覚え、これからは生かしたい」とのコメントをいただけたので、多少なりともお役に立てた実感を得られました。</p> <p>皆さんからいただいた評価とコメントを参考にして、より良い授業を目指します。</p>

教員氏名	科目名	アンケートに対するコメント
本多 悟	マス・コミュニケーション演習K、実習K	<p>「マス・コミュニケーション演習K、実習K」の授業では、講義（出版業界の現状や雑誌の作り方についての解説）と1班3～6名で構成する「編集部」ごとのワークショップ形式により進め、8ページのオリジナル雑誌を作り上げています。</p> <p>まずは、受講生の皆さんが雑誌制作に対して真摯に取り組んでいただいたことに感謝を申し上げます。</p> <p>また、アンケート設問10「授業を通して多くの知識を得ることができた」において演習、実習ともに4.9の評価をいただいたので、多少なりともお役に立てた実感を得られました。</p> <p>皆さんからいただいた評価を参考にして、より良い授業を目指します。</p>
本多 悟	出版論 I	<p>「出版論 I」の授業は、出版の歴史、出版社の活動を学び、出版の未来を探ることをテーマにしていますが、事前課題として、次回のテーマに沿ったインターネット上の関連記事を探して読んでおくことを義務づけています。</p> <p>まずは、受講生の皆さんが課題に対して真摯に取り組んでいただいたことに感謝を申し上げます。</p> <p>また、授業中には私が作成したPowerPointの資料を順番に読み上げていただいておりますが、アンケート設問10「授業を通して多くの知識を得ることができた」において4.7の評価、アンケート設問12「教材・資料等の利用は授業の理解に役立った」において4.9の評価をいただいたので、多少なりともお役に立てた実感を得られました。</p> <p>皆さんからいただいた評価を参考にして、より良い授業を目指します。</p>
木内英太	ポピュラーカルチャー論	映画など他の分野にも関心をもってもらえたようで嬉しく思います。
王令薇	メディア社会学/メディア社会心理学	アンケートへのご回答ありがとうございました。受講生100人以上の大人数の講義にも関わらず、回答率は昨年度より高かったです。それは、出席率の高さも表した結果だと受け止めます。自由記述では、好意的なコメントをたくさんいただきましたが、2名程度の学生から内容の難しさと話し方についてご指摘をいただきました。今後の参考にさせていただきます。
神田洋	スポーツジャーナリズム論 I	<p>自由記述欄に「いろいろなスポーツの話が聞けると思ったが、野球ばかりで残念」という趣旨のコメントがあった。</p> <p>近代競技スポーツの誕生・普及とメディアをテーマにした前期の3回目までは英国サッカーの話が主だった。ただそれ以降、野球が大きな割合を占めたのは確かである。本科目はスポーツジャーナリズム論であり、日本のスポーツ報道を語るのに、100年以上にわたり人気スポーツとしてマスメディアに扱われてきた野球を中心とすることは避けられない。また報道機関が競技に与えた影響という観点でも、朝日新聞社の夏の甲子園と読売新聞社のプロ野球という巨大なメディアイベントが主題となる。</p> <p>スポーツ史やスポーツ文化論であれば、より多くの競技に言及することになるだろうが、スポーツジャーナリズム論ではやはり野球が主である。</p> <p>参考までに、後期のスポーツジャーナリズム論 II は五輪やパラリンピック、ジェンダーと競技スポーツ報道などを題材とし、野球の比重は前期より低い。</p>
森川俊生	情報番組制作論 I	授業評価の項目で最も平均点が低かったのが、「14.専門知識や専門用語の説明はわかりやすかった」（4.5点）でした。できる限り番組制作現場のありのままを話そうと考えながら授業を進めているのですが、「専門用語の説明が授業内で十分になされているか？」という点について、改めて自己点検しようと思いました。

教員氏名	科目名	アンケートに対するコメント
森川俊生	放送論 I	私の講義科目ではすべて、「記述を含めた課題を毎回提出してもらい、優れた解答例などを次回の授業で紹介する」というスタイルをとっていますが、自由記述欄では「前回の課題の振り返りで学生の書いた感想を読み上げているのが学生のモチベーションにもなっていると思った」等の好意的コメントを多くいただいているため、今後もこのスタイルを続けて行こうと思います。
林 香織	コミュニケーション学概論	平均より下回った項目として、「授業は何を目的としているのかが、明確に理解できた（全学平均：4.5に対し、4.3）」、「教材・資料等の利用は授業の理解に役立った（全学平均：4.5に対し、4.2）」等がありました。毎回の授業目標を設定し、クラスルームを通じて配布する資料にも記載してありますが、それでは足りない、ということのようなので、次年度から、授業終わりの振り返りを提出してもらおう際に、理解度を記入してもらおうなどの工夫が必要かな、と思いました。また、授業内容をすべて記載した配布資料をクラスルームで配布しているにも関わらず、理解度の役に立っていないのは残念ですが、正直、何の資料を求めているのかわからないので、学生へのヒアリングなどを通じ、改善していきます。
林 香織	メディア史	ほぼすべての項目で、全学平均もしくは平均より上回っていました。必修科目ではないので、「この科目を履修する時にシラバスをよく読んだ（全学平均：4.4に対し、4.5）」、「出席率はどうでしたか（全学平均：4.8に対し4.9）」など、受講した学生の自己評価も非常に高く、授業後のコメントも深く考えさせられるものが多く、楽しく授業をすることができました。受講生の皆さんの協力を感謝します。1点、「総合的に考えて、この授業を後輩や他の人に薦めたい（全学平均4.5に対し、4.3）」とやや低くなっていました。私なりに考察すると.....周りの受講生も欠席が少なく、指定された予習などをきちんと行わないと、翌週の小テストの点数に如実に響くといった授業スタイルが、敬遠されがちなのかな、とは感じています。ですが、予習・復習時間を含めて、単位認定するので、むしろ予習・復習しないで大丈夫、という授業スタイルに疑問を持つため、ここは変えようがないので.....シラバスをよく読み、趣旨を理解頂ける方に受講して頂きたいと思いました。
林 香織	消費者行動論	履修人数が少ない科目ではありますが、すべての項目で全学平均を上回っていました。3年生以上の科目であり、受講者が限定的になることが想定される科目である分、今までの知識が手をつなぐように説明にも工夫をこらしたつもりです。正直、本年から担当する科目だったので、どのように進めるのか、手探りでしたが、理論と具体的な例を交えて考察する、ということをやった結果かな、と思います。自分のこととして考えてもらえるように、教室の中を歩いて、発言を促したりしましたが.....授業に集中するための工夫として評価するコメントを頂きました。受講生の協力を感謝します。

教員氏名	科目名	アンケートに対するコメント
林 香織	マスコミ総合科目B	<p>専門ゼミナールの後、ゼミ生のみが受講している科目ですが、非常に高い評価でした。 就職につながるような知識として、小テストを毎回課しているのに、「この授業に関して、予習や復習などの事前準備や復習にどの程度時間をかけましたか（全学平均2.8に対し、2.7）」なのは少し残念でした。 テストで知識を問うだけでなく、予習や復習をしたくなる仕組みづくりが必要だな、と痛感した次第。ゼミ生と協力しながら、後期の「マスコミ総合科目C」で変化をつけたいと思います。</p>